ろらんずめいつ、わるきゅぅれっ！

 １

『チーム』という言葉を辞書で引いてみる。

「ある目的のために協力して行動するグループ」

　細かいところは違えこそ、おそらくどんな辞書を使おうが、これと似たような解説がなされているだろう。この解説は、ある意味では正しい。

　だが、２４１４年。人々はこの言葉を、これとは異なる意味と認識していた。

「闘うために集められた集団」

　その時代のどんな辞書にも、この一文が付け足されている。勿論、今までの解説の「ある目的」のところを「闘うため」と捉えれば、わざわざ付け足す必要はない。だが、この「闘うため」という言葉は、他の目的とは同じ括りには出来ないものとして人々の間で浸透していた。なぜなら――

　地球のコピーと思われる異次元空間『トラース』が、ある研究者によって発見され、そこでの領有権を我がものとするため、『チーム』は日夜、戦いを繰り広げているためである。

　とある理由から話し合いの余地は無かったものの、最初の頃は大した闘いではなかった。『チーム』の自体の数や、そこに所属する人間が少ないのも理由の一つだが、もっと大きな問題があったからだ。その空間に行けるのは人間だけで、地球で作られた人以外の一切の物質、例えば服など、もっと言えば武器を持ち込むことは出来ないのだ。つまり、ただ裸で殴り合うだけの単調な戦闘しか行われていなかったのである。

だが、人は成長していく生き物だ。やがてその空間に存在する物質を加工する技術が発見され、『チーム』のメンバーは武器を持って闘うようになる。同時に『研修所』と呼ばれる施設が日本各地に作られ、『チーム』のリーダー及びそれに近い役職の人間は、将来有望そうな子供を見つけては――あるいは子供自身の意思によって――その『研修所』に入れるようになった。

　時は２５１４年。『チーム』の総数は二十以上にも及び、未だにこの闘いは終わる気配を見せない。